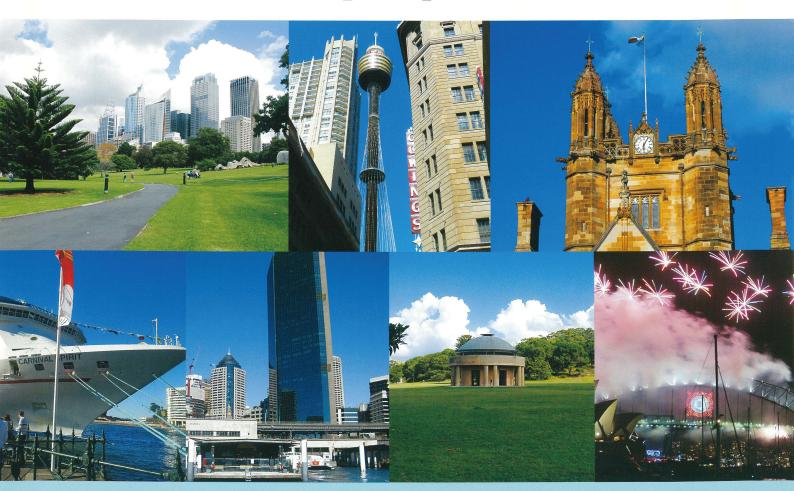
平成27年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択事業

文化学園大学服装学部服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース

# インターンシップ報告書



# Global Management in Fashion Internship Report 2015



# Global Management in Fashion Internship Report 2015

# 服装社会学科グローバルファッションマネジメントコース 海外・国内インターンシップ報告書発刊にあたり

この度、平成27年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択事業の一環として、長期学外学修プログラム~海外・国内インターンシップ~を実施致しました。事業活動の成果を報告書としてまとめました。ご一読いただければ幸いに存じます。

服装社会学科のグローバルファッションマネジメントコースは、2014年度3年次から新設されたコースです。このコースは、グローバルに発展する我が国のファッション・アパレル産業界で活躍できる人材を育成するために創設致しました。ファッション・アパレル産業において、グローバルな視野でマネジメントできる能力や新たな市場開拓へチャレンジする意欲や能力を身につけることを目的としています。

その教育方針の一環として、3年次の後期に長期間の海外及び国内企業のインターンシップを実施いたします。第2期生である2015年度生はオーストラリア・ブリスベンに4名、シドニー3名、パースに2名、香港に1名の学生が参加し、8週間のインターンシップ、或いは4週間の語学研修とインターンシップ等いくつかのパターンで実施致しました。また、国内グローバル関連企業に1名が8週間のインターンシップ体験をしてまいりました。

特に、海外での長期インターンシップは英語のコミュニケーション力など心配もありましたが、それぞれが異文化での困難や課題も克服し、海外企業での就業体験を積み、得難い貴重な経験ができたと思います。学生の報告にもありますように多くのことを学び、身につけ、たくましく成長できたことを実感できたことは大変喜ばしいことであります。

この度、インターンシップを終えて報告書をまとめるにあたり、ご協力、ご支援いただきました海外提携校TAFE Queensland Brisbane, Polytechnic West, 海外・国内企業様はじめ、文化学園および文化学園大学の関係部署に心から感謝申し上げます。

2016年2月 服装学部服装社会学科 主任教授 松田 祐之

#### Message from the Chair Professor

This year a long-term domestic and overseas internship program was carried out as a part of the "Acceleration Program for University Education Rebuilding: AP" by The Ministry of Education. The following is a student's internship report which covers the student's activities and experiences in the internship program.

Global Management in Fashion at Department of Fashion Sociology and Science was a newly established course in 2014 targeted at third-year and fourth-year students. This course was launched for the purpose of developing individuals who can play a vital role in Japan's globally- developing fashion and apparel industry. As a goal of this course, we expect students to be able to acquire global management skills and aspire to cultivate new business markets.

To fulfil one of our global educational policies, we implement a long-term internship program at overseas and domestic companies in the second semester of the third year. In the second term, this year we provided different internship programs at different locations for different periods of time, one of which was a combination of a four-week language program and industrial experience and another was an eight-week industrial experience; 4 students were in Brisbane, 3 students were in Sydney, 2 students were in Perth Australia, and 1 student went to Hong Kong. In addition to the overseas internship, 1 student finished an eight week internship experience at a global Japanese company.

At first, we were concerned about the students' English communication ability. However, I am certain that each student had a valuable experience working at an overseas company by overcoming the obstacles and difficulties in a cross-cultural environment. As you can learn from the internship reports, I am pleased to see that all students were able to learn a lot and become more mature adults.

To conclude this message, I would like to express my deepest gratitude to those who supported and made this program possible especially to our affiliated overseas institutions, TAFE Queensland Brisbane and Polytechnic West, and domestic and overseas internship companies. I would like also to take this opportunity to thank Bunka Gakuen University and related departments staff members for all the supports.

February, 2016

Sukeyuki Matsuda

Chair Professor

Department of Fashion Sociology and Science

# **目 次** インターンシップ研修報告書

	Part I オーストフリア (ブリスベン・シドニー・パース)
1	ブリスベン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6 研修先: Knitch
2	ブリスベン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8 研修先: Mountain Designs
3	ブリスベン ・・・・・・・・・・ 10 研修先: Dogstar
4	ブリスベン ・・・・・・・・・・・・・・・・・12 研修先:LOUENHIDE
5	シドニー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14 研修先:①Charlotte Hawke ②VanMED ③Corporate Apparel Group
6	シドニー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16 研修先: AKIRA
7	シドニー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18 研修先:①VanMED ②Corporate Apparel Group ③Charlotte Hawke
8	パース ······ 20 研修先: AURELIO COSTARELLA
9	パース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22 研修先: Galleria Couture
	Part2 香 港
10	香港 ••••••••••••••••••••••••••••••••••••
	Part3 国 内
11	東京 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28 研修先:ブランドニュース株式会社

# INTERNSHIP REPORT \*\*\*: AUSTRALIA

インターンシップ報告書・豪州

研修国・都市:オーストラリア・ブリスベン

研修期間:2015年11月3日~2015年12月5日

研修先企業名: Knitch

#### ■ 研修先企業について

2013年にオープンした毛糸屋兼編み物教室です。従業員はオーナー1人のみで、店内が二つに分かれていて片方は別のオーナーが裁縫教室を開いています。編み物教室のお客さんは毎週通っている方がほとんどでオーナーと交友関係が深いです。とてもアットホームな空間で編み物を楽しむというよりも、毎週集まっておしゃべりをしたりお菓子を食べたり、お客さんにとっては教室というよりも仲間とおしゃべりができる特別な空間といった感じでした。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

午前から昼までは編み物教室を行っているのでお客さんと一緒に教室に参加していました。時々、オーナーオリジナルの新しくできた毛糸を店頭に出すためにラベルを貼ったりしました。午後の時間は何でもやっていいとオーナーから言われていたので自らの課題として広告の作製や、顧客へ向けたクリスマスカードの作製をしました。一日だけ、繊維業者の方がきて、春に向けた毛糸の商談があったので隣で見学しました。

#### 「1週間のスケジュール例」

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
定休日	編み物教室	編み物教室	編み物教室	編み物教室

# 3 事前に設定した目標や課題

私は以前から、PhotoshopやIllustratorを使って広告を作ったり、SNSに投稿をしたり、何らかの手段で外に発信できるようなことがしたかったので、私のインターン先でできそうなことは広告を作ることでした。毛糸を取り扱う場所ということは知っていましたが、編み物教室があることは知らなかったので、毎日違うお客さんが来るということでたくさんの人とコミュニケーションを取ろうと心掛けました。

#### 4 インターンシップを通して学んだこと

過去に某アパレル企業でインターンをした時とは全く異なったビジネススタイルでした。一人しかいないオーナーが数多くのお客さんと全貝コミュニケーションを取ったり、商売を大事にするというよりもお客さんとの関係性、信頼関係を大事にしているように思いました。個人経営ではSNSの更新やブログの管理は難しいと言っていました。その分毎日の顧客とのコミュニケーションを欠かさず楽しい空間を作ろうとオーナーは心掛けていました。それがオーナーにとってのビジネスであり、顧客マネジメントにもつながるのではないかと思いました。

また、自分が実際に相手に貢献できたかではなく、その仕事を最後までしっかりやり遂げることが大切で、もし自分が作った広告が使われなかったとしても、その仕事を最後までやり切って上司に相談したり、意見を交換したりすることが重要だと思いました。

#### 5 研修国での生活体験について

自分の意志をはっきり相手に伝えないと生きていけません。言語も文化も違うところで生活するには必須のことだと思いました。オーストラリア人はあまり物事を心配せず気楽にとらえようとする人が多いです。時間があればホストファミリーと過ごすことが一番の文化体験につながると思います。ホームステイ先がコテージだったので当初は不安を感じていましたが、自分で家事をしたり、料理をしたり、時間を有効に活用することができました。物価が高いので、買い物よりも公園や動物園、ビーチに行きました。マンゴーがすごくおいしいです。

#### 6 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩への メッセージ・アドバイス

IllustratorもしくはPhotoshopのスキルがあるといいと思います。

もちろん英語がたくさん話せることができれば、その分現地人とコミュニケーションはよく取れるし、多くの仕事を任せてもらえると思います。しかしそれだけではなく、自分の意思表示と自信をもって恐れずに物事に取り組む姿勢が大事だと思います。

若いうちの大きな経験はきっと年をとっても忘れられないものになると思いますので、自分なりの目標をもって一分 一秒大事にして後海の無いように過ごしてください。

# 7 支出の内訳 [生活費・お小遣なども含めて]

•	航空券		約	11	50	.000	H
---	-----	--	---	----	----	------	---

- ・ホームステイ10週間 ------ 239.000円
- インターン先までの交通費 …… 片道350円
- プリペイド携帯代 …… 6,000円
- その他生活費食費(2か月半分) ※※※約150,000円

研修国・都市:オーストラリア・ブリスベン

研修期間: 2015年10月26日~ 2015年12月4日

研修先企業名: Mountain Designs

#### ▮ 研修先企業について

インターンシップ先の「Mountain Designs」は、登山家Rick White氏により1975年ブリスベンから誕生したアウトドアブランドです。オーストラリア国内に約40店舗を展開しており、その中の本社でインターンシップをさせていただきました。クオリティーの高い独自の麻品を開発しており、アパレル商品からテントなどのキャンプ用品、他ブランドまで幅広く取り扱っています。インターンシップ先は、スペースの大きいオフィスで40~50人ほどの従業員の方が働いていました。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

はじめはスチームがけ等の雑用。その後はほとんどがパソコンを使った業務で、主にWeb管理のお手伝いをしていました。オンラインサイトに載せるための商品の撮影、撮影をしたものの画像編集からアップロードまでの工程を教えてもらいながらやらせてもらいました。他には、Mountain DesignsのインスタグラムやFacebook等のSNS用画像や動画の編集、カタログに載せる商品のチェックや写真選びなどが主な業務でした。主に使用していたのはPhotoshop、adminなどです。やる仕事がない時に、何か業務があるか確認をしても、「今は何もないから待っていて。」と言われることも多々ありました。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
カタログ用写真選び	撮影	撮影画像編集	撮影画像 アップロード	SNS用画像製作

#### 3 事前に設定した目標や課題

海外で働くことと日本で働くことの違いを体験し、今後自分にとってどんなスキルが必要になるのかを考え、学ぶ ことを目標として、インターンシップに行きました。

# 4 インターンシップを通して学んだこと

インターンシップ業務を通して、雑用を頼まれることが多くあり、最初は嫌だな、と思ってしまっていました。しかしどんなに小さな仕事でもそれは大切なことであり、その小さな仕事をやってくれる人がいるからこそ会社、またブランドとして成り立つのだいうことを学びました。最終的には、仕事に大きさなどないのだ、と考えられるようになりました。そして、海外のフレンドリーな雰囲気の職場はとても働きやすいと実感しました。

さらに、実際にインターンシップ体験をすることで、今まで知っているようで知らなかったアパレル会社の裏側を みることができ、将来的にアパレル会社の本社で働くということに興味を少しずつ抱くようになりました。また、自 分の意見をはっきりと主張することが、海外で働く上でとても重要である点も改めて実感しました。

#### 5 研修国での生活体験について

初めのホームステイ先のホストマザーとは生活感が合わず、汚い言葉を使われたり、文化の違いを受け入れてもらえなかったりと、ものすごく辛いことばかりでした。しかし、新しいホストファミリーの家に引っ越してからはとても楽しく暮らせました。

オーストラリア人はとてもおおらかですが、悪く言えば大雑把なところもあります。その文化や生活の違いを肌で感じながら、ホストファミリーとの生活ができたのもいい勉強になったと思います。

#### 6 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

インターンシップ先の人事の方に、私がインターンシップを始める前に、もっと何を学びたいか、どんなスキルを身に着けたいのか、という点を事前に明確に知らせておいて欲しかったと言われました。今後プログラムに参加する人は、その点をしっかりと考えておいたほうがいいと思います。

あとは、辛い事や大変なことが沢山あっても、楽しむ気持ちや自分の意見をはっきりと伝えられるように準備しておくことが必要だと思います。一生懸命な姿勢は絶対に伝わるはずです!!

・交通費 約AUS 250ドル・食費 約AUS300~400ドル

• 遊び買い物 **約AUS300~500ドル** 

研修国・都市:オーストラリア・ブリスベン

研修期間:2015年10月26日~2015年12月1日

研修先企業名: Dogstar

#### ■ 研修先企業について

Dogstarは、ブリスベンのファッションデザイナーであり日本人の安木まさよさんによって作られたオーストラリアの女性ファッションブランドです。1998年の設立以来、現在ではブリスベンに2店舗、メルボルンに1店舗の計3店舗のお店があります。私はブリスベンのウールルーンガーバにあるDogstar studioと呼ばれる本店で働いていました。Dogstar studioは本店に値します。ショップだけでなく、ストックやオフィスが一体になっているのが特徴です。そのため従業貝の職種も様々で、縫製担当、接客担当、パタンナーがおり、皆同じ空間で仕事をしているという小企業ならではの営業形態でした。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

インターンシップ中は、大きく分けて3つの仕事をしていました。まず1つ目は写真を撮ることです。毎朝出勤をしてから1~2時間Dogstarのインスタグラムにあげるための写真の撮影をしていました。衣服写真だけでなく、植物、アクセサリーなど、目を引くようにアーティスティックなイメージを目標に撮っていました。2つ目は、ショップに飾るインスタレーションを作ることです。期間は約2週間程度で具体的にはティーバックを使いました。赤、青、緑、黄色にティーバックを染めて、釣り糸につるして空間アートを作りました。3つ目はウェブショップに掲載する写真を、フォトショップを使って編集することです。これは会社でなければなかなかできない仕事だったので面白かったです。どうしたらきれいに商品のイメージを顧客に伝えられるかを考えて編集し、それが実際にサイトに掲載された時には達成感を感じました。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
インスタグラム用 写真撮影 インスタレーション つくり	インスタグラム用 写真撮影 インスタレーション つくり	インスタグラム用 写真撮影 画像編集	インスタグラム用 写真撮影 画像編集	インスタグラム用 写真撮影 画像編集

# 3 事前に設定した目標や課題

自己主張をすることです。自分は何ができて、何ができないのか。何に興味を持って、どういう経験をしたいのか、 自分を知ってもらおう、ということを目標にしてインターンシップに参加しました。

相手は日本人ではないということをきちんと理解することです。外国でインターンシップをする自覚や意識を持っていても、文化の違いや考え方の違いに驚くことがとても多く、悩まされたこともありました。例えば時間にルーズであったり、作業が大雑把であったり、連絡がまめではなかったりなど旅行では分からないインターンシップだからこそ分かった違いが沢山ありました。仕事をする上で、その違いをまず認めること、そしてどうしたらいいのか対策を考え、その行動に対しての応用力をつけることが大切だと感じました。

以前は外国で働くことに興味を持っていましたが、インターンシップを経験し、私には外国人と外国のルールで一緒に仕事をすることは困難だと感じるようになりました。しかし外国に行くこと、外国人とコミュニケーションをとることに対しては変わらず興味を持っているので、日本のサービスを外国人に提供したり、日本人らしさや日本の良さを他言語で表現提供できるような仕事がしたいと思いました。また今回インターンシップ中に行っていた、写真の編集等の仕事もやりがいを感じたので、就職活動をする際視野に入れようと思いました。

#### 5 研修国での生活体験について

オーストラリアでは朝早くから行動し、海に行ったり、スポーツをしたり、カフェでお茶を飲んだり、自然と触れ合ったりなど好きなことをして、夜はお店も早く閉まるので、家で自分の時間を過ごす生活をしていました。仕事は定時で終え、残業をしている人もほとんどいませんでした。日本の忙しい毎日からすると少し退屈な部分もありますが、規則正しい人間らしい生活がとても印象的で快適でした。

ホームステイでは、親切な人ばかりではありませんが、愛情を持って接してくれる人もいると知る事ができました。 私は最初のステイ先でトラブルがあり、ホームステイに関していいイメージを持てないでいました。しかし新しく受け入れてくれた家族が本当の娘のように接してくれ、勉強も教えてくれたり相談も乗ってくれたりとても幸せな生活でした。嫌なことがあったり不満があったら、我慢をしないで相談をすることがホームステイをする上で一番大切だと学びました。

#### 6 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

仕事するときは仕事をして、遊ぶときはたくさん遊んで、生活を楽しんでください!!

# 7 支出の内訳

•	航空券(シドニーへの移動費用も含む)		約10万円
•	ステイ代		約40万円
•	交通費	週紀	约3000円
•	ランチ代	週紀	约3000円
•	携帯代	月紀	约3000円

研修国・都市:オーストラリア・ブリスベン

研修期間:2015年10月26日~2015年12月11日

研修先企業名:LOUENHIDE

#### ■ 研修先企業について

私の行ったインターンシップ先は、「LOUENHIDE」というオーストラリア人デザイナー LOUさんとHEIDEさんによって立ち上げられたブランドです。現在、ブリスベンのPaddingtonとIndooroopillyにショップがあります。創業は2006年、扱う商品は主にハンドバッグやアクセサリー、シューズで、価格帯は、AUS\$30~\$400です。またターゲット年齢層は20代~60代です。従業員が15~20名ほどの小さな会社だったため、アットホームでした。会社形態は、ECサイト(オンラインショップ・THE ICONIC・Hard of Find)、Retailing、Warehouseです。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

主にPhotoshopやInDesignを使いWEBサイトのデザインやバーナー広告を考え、その後ミーティングで提案をしたり、インターナショナルカタログの作成を行いました。 インターナショナルカタログでは、同じ商品のカラーを変え、モデルの写真を加工しました。また、Mail Chimpというソフトを使いEDM(カスタマーへのダイレクトメール)の作成・管理やSNS(Twitter, Instagram)の更新内容を考えアップデートを行いました。

インターンシップ期間毎朝やっていたことは、MagentoというECサイトの管理ソフトでの商品管理・カスタマーの情報入力、オンラインストアでオーダーされたものをピックアップ・パッキングするお仕事です。そして、店頭での接客・ディスプレイ作成(3日間)、Warehouse Sale (2日間)という貴重な経験もさせて頂きました。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
商品管理・ 情報入力 WEBデザイン	ミーティング WEBデザイン	SNS更新	EDM作成	インターナショナル カタログ作成

#### 3 事前に設定した目標や課題

私は、海外での仕事体験やオーストラリアの企業文化に触れることで、自分のこれからの視野を広げていくこと、 社会人として必要なスキル、今の自分に欠けているものを見つけることを目標に設定してインターンシップに取り組 みました。

私がインターンシップで学んだことは、パソコンスキルと積極性とコミュニケーションの大切さ、遂行能力の4つです。まずパソコンスキルは、インターンシップを通してフォトショップとインデザインを使って写真加工・編集、デザインができるようになりました。2つ目に身に着けた積極性は、仕事をする上でとても必要なことだと学びました。実際にインターンシップの3日目までは倉庫の整理や掃除がメインでしたが、積極的にコミュニケーションをとることや、意欲を伝えることで信頼関係が生まれ、別の仕事も任せてもらえるようになりました。3つ目に学んだことは、コミュニケーションの大切さです。海外に来るといつもこの大切さに気が付きます。日本人同士なら、なんとなくのニュアンスで伝わることも、外国人と接する場合には、何でも言葉に出さないと伝わりません。また仕事での報告・相談・質問の大切さも学びました。

最後の遂行能力はインターンシップを通して、最も学んだ点だと思いました。私は、「とりあえずなんとかなる」というスタンスでインターンシップに取り組んでいました。ボスから1人で任された仕事も色々な方法を自分で見つけ出し取り組んでいました。とにかく行動を起こすことで徐々に自分のできる仕事の範囲が増えていきました。

#### 5 研修国での生活体験について

私のホームスティ先は、パパ、ママ、9歳と6歳の男の子、ママの友達、犬という家族構成でした。一番辛かったことは、朝の早起きです。なぜなら家から職場までの通勤時間が1時間半と長く、そして電車とバスの乗り継ぎがあったからです。私は生まれてからずっと東京で暮らしていたので、交通の不便を感じたことがありませんでした。そのためオーストラリアでは交通網が悪く、ぴったりの時間に電車やバスが来ないという点には苦を感じました。しかし距離が遠くても家を変えたくなかったのは、ホームスティ先がとてもいい家庭だったからです。週末には皆で、サンシャインコーストやゴールドコーストにショートトリップしたことが一番の思い出です。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

インターンシップでは、何が起こるか分からないので臨機応変に対応できる頭と、自分で決めた目標に向かって進む強い心が必要になります。インターンシップを海外でできるチャンスは、今後将来へも繋がるとても良い経験だと思います。

#### 7 支出の内訳

・交通費・お昼代・遊び観光など……………1ヶ月10万円程度

研修国・都市:オーストラリア・シドニー

研修期間:2015年11月16日~2015年12月11日

研修先企業名: Charlotte Hawke · Van Med · Corporate Apparel

#### ■ 研修先企業について

研修先の1つ、Charlotte Hawkeはシドニー、ダブルベイの閑静な街にあるお店で、オーナーのCharlotteさんが商品のデザインから発注、VMD、接客、経営を一人でこなしています。商品はレデイース服をメインにストールやアクセサリー、食器なども扱っています。洋服はすべてCharlotteさんのオリジナルで一つ一つにこだわりがあります。値段は大体AU\$100~で若い女性から年配の女性までが買いにきます。客単価として平均AU\$300くらいでAU\$1,000以上購入するお客さんもおり、リピーターも多いです。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

朝10時オープンでまずは開店作業をします。業務内容は日によって様々ですが、インターンシップ前半は主にトレンドリサーチをしました。最新のファッションショーを見たり、雑誌を見て切り抜きして2016AWに何が流行するのかを考えます。そしてCharlotteさんに内容を報告し、その後Charlotteさんと話し合い、2016AWのコレクションのテーマやイメージ、カラーを決めました。また、店内のレイアウトやアクセサリーを飾る棚のデイスプレイ、トルソーの着せ替えもしました。そして、カメラで商品や店内のデイスプレイを撮影しそれを加工しインスタグラムに投稿も担当しました。クリスマスのデイスプレイの参考にするため、ショッピングモールへ行き、いろんなお店を見て回ることもありました。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
ディスプレイ、 レイアウト変更	商品の撮影、 SNS投稿	2016AW トレンドリサーチ	市場調査	2016AW トレンドリサーチ
接客	接客	接客	接客	接客

# 3 事前に設定した目標や課題

普段失敗を恐れることがあったのでインターン先では、英語の間違いを気にせずに伝えたいことを伝えることを目標にしていました。また積極的に仕事に参加することも課題として設定していました。

まず、私が一か月のインターンに参加して感じたのは、シドニーの人の働き方が日本人とは少し違うということです。シドニーの人はある意味仕事に固執してなく、自分の仕事が終われば帰宅する、残業をしないという働き方をしていました。ですが日本同様にどのようにすればお客さんを惹きつけられるか、購買に至るかなどを常に考えていました。私が別のインターン先VanMEDという会社で、インターンをしていた時に日本の市場や日本での競争相手、何が流行っているのかを教えてほしいと頼まれ、インターネットで調べたり日本のマーケティング手法などを報告したところ、とても参考になると喜んでもらえました。私から見たら普通だと思っていだ情報がシドニーの人から見たら貴重な情報になることを知りました。

グローバルな環境で働くということは、それぞれの強みを生かし、それぞれの足りない部分は補うことで成り立つのだと思いました。また今回は1か月で3か所のインターン先に行ったので各業務内容が大きく変わり、最初は戸惑いましたが適応力が身についたと感じました。

#### 5 研修国での生活体験について

ホームステイ先の家族は両親と一歳の男の子がいました。両親が共働き、子供は保育園に預けていました。小さい子供がいるにもかかわらず、両親共働きなのは日本では少し珍しいと思いました。また、シドニーではイベントが大規模だと感じました。ハロウィンのときには、主催者がイベントを開催し、警察などが警備しイベントには多くの人が参加し町全体で盛り上がっていました。クリスマスには大きなクリスマスツリーが飾られ、クリスマスイブには花火があがり盛大でした。また、シドニーには様々な人種の人がいて移民大国であることを感じさせられました。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

英語力に関してはスピーキングの勉強をもう少ししておけばよかったと思いました。インターン参加前にTOEIC®の勉強をしていたため、ビジネス系の単語などは身につけてその場で使えたのですが、現地では自分の意見などを思うように伝えられず、もどかしかったです。

そのほかにPCスキルやビジネスなどのファッション以外の知識が必要だと感じました。PCスキルはイラストレーターやフォトショップを使いこなせれば業務がよりスムーズにできたと思います。

心構えとして、すべてが日本と同じようにうまくいかないものだ、と割り切ることも大切だと思います。うまくいかないことのほうが多いですが、気にしているときりがないので自分にできることは確実にこなすことが大切だと思います。

#### 7 支出の内訳

[平 日]	• 交通費(往復) <b>\$7前後</b>
	• 昼食代
	<ul><li>その他雑費 ************************************</li></ul>
[休 日]	• 観光代 <b>\$20前後</b>
	• 昼食代 ·······\$10

研修国・都市:オーストラリア・シドニー

研修期間:2015年11月16日~2015年12月11日

研修先企業名: AKIRA

#### ■ 研修先企業について

研修先の会社は、オーストラリアにある、AKIRA DESIGN STUDIOです。スタジオは、Sydenhamと言う工業区に位置しているので、周りに飲食店などはあまりなく、建物の外観は落書きが多く、スラム街の雰囲気でした。しかし、デザイナーのAKIRAさんや他のスタッフの方も皆優しく、とても仕事がしやすい環境でした。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

私の最初の仕事は、AKIRAさんが描いた水彩の柄をパソコンに取り入れて、フォトショップで修正し、リピートできるパターンにすることでした。最初は一週間だけこの仕事を任せてもらう予定でしたが、フォトショップが良く使えるとのことで、その後もフォトショップを使用した仕事を続けてすることになりました。また、雑誌に載せる商品の撮影した写真を、フォトショップで修正する仕事もしたため、フォトショップを使う割合が多かったです。

市場調査は、AKIRAさんが指定したダウンタウンのお店に実際に行き、商品の価格帯やスタイルを調査し、写真をいくつか撮って、レポートにまとめる仕事でした。また、アップサイクルはスポンサーのBOUDSのTシャツと商品作りに残った残布を使って、新たな商品に作り変える仕事です。最後の仕事は、会社の棚卸し感覚で全て在庫のファブリックをメジャーリングする仕事でした。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
Photoshop	Photoshop	雑誌用写真	市場調査	メジャーリング

# 3 事前に設定した目標や課題

事前に以下の目標を設定しました。まず英語面では、毎日一定数のボキャブラリーを覚えて、ホストファザーと会話ができるようになることと、オーストラリアのお店で問題なく注文ができるようになることです。またオーストラリアの文化を体感することや、シドニーで行ける観光名所に行くことも事前に考えていました。

このインターンシップを通してオーストラリアでの仕事環境を少し学ぶことができました。

日本へ留学して、海外での生活に慣れてきていたので、どの国でも生活ができると思っていましだが、この二ヶ月で やはり欧米はアジアと全然違うことが分かりました。

また、仕事場ではフォトショップのスキルを使うことが多かったので、やはりパソコンスキルは菫要だと思いました。 今後はオーストラリアで仕事することはないと思いますが、これまでのオーストラリアの経験が将来の仕事などでいつ か役に立つと信じています。

#### 5 研修国での生活体験について

一番印象に残っているのは食文化の違いです。オーストラリアで2ヶ月生活をして、自分はお米を食べないとダメだという事が分かりました。そして、私は日本で缶のアイスコーヒーをいつも飲んでいましたが、オーストラリアに来て何回も飲食店でアイスコーヒーを注文した結果、全部カフェオレにバニラアイスを入れたドリンクが出てきました。アイスコーヒーは日本特有なものだと分かりました。あとバスの遅延が多く、郵便物の配達のことなども含め、オーストラリアの仕事の効率は日本人より悪いと感じました。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

お金が結構かかるので、クレジットカードを持っていくと大変便利だと思います。ちなみに、カードは2枚以上持っていった方がいいです。僕はオーストラリアで1枚失くしてしまい、もう一枚別のカードがあったので、すごく助かりました。また、Photoshop、エクセル、パワーポイントは絶対にできた方が役に立つと思います。

#### 7 支出の内訳

- オーストラリアで使ったお金のトータルは日本円で約20万円。
- 食事……8~15ドル/食
- ・観光………100~200ドル
- ・その他

研修国・都市: オーストラリア・シドニー

研修期間:2015年11月16日~2015年12月11日

研修先企業名: Van Med·Corporate Apparel Group·Charlotte Hawke

#### ■ 研修先企業について

研修先の1つVanMed Australiaは、デザインと機能を兼ね備えたテックマスクという商品を製造・販売しています。 社長とその娘さんが日本を訪れた際に、たくさんの白いマスクをしている人を見てマスクがもっとおしゃれだったら という所から事業がスタートしました。オフィスは社長・社員3名の4名体制でした。日本のユーザー向けのホームペ ージがあり通販、ポップアップストア、アウトレットの店舗での販売も行われています。また、文化学園でもマスク のデザインコンペが行われました。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

日本の市場の様子を教えて欲しいということだったので、それらをまとめて毎日の終わりにレポートの提出をし、その次の日に話し合いをして提案をしました。日本人目線の意見が欲しいと言われ、日本人特有の文化や好みを加えて説明しました。また、日本版のサイトに載せる内容の翻訳の手伝いや、SNSやHPに載せる画像の作成から日本人モデル選定もおこないました。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
オリエンテーション	話し合い	話し合い	話し合い	話し合い
レポート	レポート	レポート	レポート「ブログ」	レポート「広告」
「マーケティング」	「ソーシャルメディア」	「webデザイン」	日本モデル選定	投稿用タグ作成
日本の提携先への 電話	日本語翻訳の手伝い	Instagram投稿	パッケージ考案	広報用画像作成

### 3 事前に設定した目標や課題

どうすればよりよい提案になるか、それをどう伝えられるのかという事を沢山考えました。また何をするにも、自分で時間を意識してやり遂げることを決めていました。

私は三社に行ったことで、それぞれの良い点、また共通点を見つけられたと思っています。仕事をする上で「楽しむこと、時間を管理すること、マーケットへの意識」を学びました。それから何度もタスクワークを繰り返すうちにPC 作業や撮影などのスキルが向上したと思います。自分の好きなことを再発見できたとともに、これらは繰り返すうちにどんどんできるようになると自信が持てました。

また海外で働くということを、この大学生時代に経験できたことで、自分の中で可能性が広がり、大学卒業後の選択 肢が増えました。何が必要でどう成長していきたいか、自分自身を見つめ直すきっかけとなったり、ワークとライフバ ランスなどこれからの進路を考える手掛かりになったと思います。

#### 5 研修国での生活体験について

オーストラリアの中でもシドニーは各国からの留学生や移民の方などが沢山集まる面白い地域でした。シティを歩けば、チャイナタウン、コリアタウン、タイタウンなどのショッピング・レストラン街があり、本当に様々な国の言語が飛び交っていてインターナショナルな世界を感じられました。週末や祭日になるとイベントが沢山ありそれに参加したのも楽しかったです。ホームステイでは、最初はステイ先の家族の生活習慣に合わせるというのが難しかったのですが、それも含め良い経験となりました。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

まず、英語がもっと出来たら良かったと悔いが残ります。コミュニケーションがきちんと取れれば何事も良い方向に変えられます。また、自分のできることをきちんと把握する必要があると思います。アピール次第で仕事も任せてもらえるかもしれません。PCでのExcel、Photoshop、Illustratorの業務が出来るとプラスです。こうしたビジネススキルを準備すると良いと思います。

#### 7 支出の内訳

• 食費(昼は自費、外食含む)	60,000円
• 日用品・衣類·······	30,000円
• 交通費	25,000円
• 交際費	20,000円
• お土産	20,000円

研修国・都市:オーストラリア・パース

研修期間:2015年11月16日~2015年12月11日

研修先企業名:AURELIO COSTARELLA

#### ■ 研修先企業について

オーレリオコスタレッラは、30年前にブランド同名のデザイナー自身が西オーストラリアで立ち上げたブランドです。 主にパーティドレスを作っていて、値段は10万円以上するものが多かったです。雑誌などによく掲載されていて、 オーストラリアでは有名なブランドでした。お店はプティックになっており、ショップと工房が同じ建物にあり、販売、 デザイン、プランニング、造形がすべて建物の中で行われていました。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

朝9時30分に出勤し、午後4時30分までの勤務でした。主にパターンをコピーする作業。コピーは、出来上がったパターン、または訂正が必要なパターンを新たな用紙に写してハサミで切るという作業でした。パターンをテスト用の布にコピーして切り取りもしました。また業務がなく手が空いた時には、掃除をしていました。さらにお客様のドレスがほつれてしまったところを手縫いでお直しをする、などの業務をおこなっていました。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
パターンのコピー		パターンのコピー	学校	パターンのコピー

#### **3** 事前に設定した目標や課題

インターンシップ参加に向けて、以下の目標を設定しました。まずは英語のスピーキングとリスニングを上達させることです。知らない新たな士地で生活するためには何が必要なのか、日本人のいない環境で、どうやってコミュニケーションをとれるようになるか、自分には今まで生活をするうえで何が欠けていたのか、外国と日本ではどちらが自分にふさわしいかをみてくることです。

#### 4 インターンシップを通して学んだこと

英語はまだまだですが、多少聞き取りが上達したと思います。一番に言えることは、今までより広い心を持てるようになった点です。日本では時間に制限された生活で、すぐにストレスを感じていましたが、急がないように生活することも大切だと思いました。また、オーストラリアの職場は大忙しな印象ではなく、自分のペースで無駄な時間がないように行うので、これも楽しく長く仕事を続けられるコツだと思いました。

学校生活では、現地の学生と先生がとてもラフな関係で、あいさつlつとってもとても楽しそうでした。普段生活をしていて、不機嫌になったり怒っているような人もあまりみなかったので、心の底から今を楽しんでいるようにみえました。同じ大変な時間を過ごしていても、楽しくポジティブに過ごす方が良いと思います。自分に甘めな部分が日本人とは違い、ストレスを感じにくくさせているのではないかと思います。これを今後の生活にも役立てて、今までと少し違った考えができるようにしたいです。

#### 5 研修国での生活体験について

家庭ごとに違う国籍の人がいて、とてもグローバルな国だと思います。日本人とは違って、スタートの時間は守らないことはあるが、終了の時間はきちんと守ります。食べ物は、焼くだけや茹でるだけの料理が多く、素材を生かした味付けはあまりしない印象でした。皆休日をうまく楽しんでいて、海や親戚の家に出かけたりすることが多かったです。誕生日、クリスマスなどのイベントは従兄弟まで呼んで盛大に祝っていました。日本と比べたら、外でスマートフォンをいじる人が明らかに少ないのを感じました。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

英語は少しでもしっかりと話せたり、表現できるだけで違います。インターンシップ先は、洋服を取り扱うところがほとんどなので、ミシンを使えると役に立つと思います。イラストレーターとフォトショップのスキルもあると、場所によってはいいと思います。

#### 7 支出の内訳

- 生活費10万円程度
- ・遊ぶこともある場合、総額20万円程度必要だと思います。

研修国・都市:オーストラリア・パース

研修期間:2015年11月16日~2015年12月11日

研修先企業名: Galleria Couture

#### . 研修先企業について

オーダーメイドのウェデイングドレス製作会社で、社長さんと奥さんで運営しており、従業員数は4名。ドレスに限らす、ヘッドアクセやジュエリーも製作して販売しています。店舗と工房が隣接していて、店舗はサンプルのウェデイングドレスやジュエリーがデイスプレイされ、全体的に高級感のある作りになっていました。工房にはいくつかの種類のミシンや、様々な体型の顧客に合うドレスが作れるようにいくつかの体型のトルソーが用意してあります。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

研修中は以下の業務を中心におこないました。

- ・店内の掃除…掃除機、ディスプレイやガラス製品を磨く
- ・レースのカット、アイロン
- ・ヘッドアクセ製作…ニスを塗って乾燥させ、ワイヤーを接着剤で取り付ける
- ・ボタン製作…手動の機械にボタンの材料をセットして作る
- ・ドレスにステッチ・・・ミシンで本縫いをする前の仮縫い
- ・ジュエリー製作…ピアス、ブレスレット、アクセサリーパーツ製作
- ・ファブリック整理…ドレスに使う生地を置いてある所の整理

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
レースのカット	Fashion School	ファブリック整理	Fashion School	ドレスにステッチ
アイロン				レースのカット
ジュエリー製作		レースのカット	3011001	アイロン

# 3 事前に設定した目標や課題

与えられた仕事を全力でこなす事はもちろん、自ら考えて行動することを目標としていました。(与えられた仕事が終わったらちゃんと次の仕事を聞きに行く事、忙しそうだったら掃除などを進んでするなど。) あとは、無理しすぎず、経験として楽しもうという気持ちをもって取り組んでいました。

海外自体が私にとって初めてのことで、英語が得意ではなかったので、海外のインターンシップは大変な事も多かったです。でも、会社の人たちはとても優しくて、分からないことをちゃんと分からないと伝えれば絶対教えてくれ、他の従業員と同じ態度で接してくれるので大変過ごしやすかったです。

私は今回のインターンシップでは、自ら積極的に仕事を探しに行くということ、分からない事はちゃんと聞く事、日本の常識と海外の常識は違う、ということを学びました。仕事に集中している時もあれば、みんなが手を止めておしゃべりをしたり、仕事中に誕生日パーティーをしたりすることもありました。海外の人は確かに日本よりもゆったり仕事をしていましたが、その分仕事をするときはしっかりとおこない、「メリハリをつける」ことが上手だと思いました。そして、日本人よりも楽しんで仕事をする人が多いと感じました。笑わない日がなかったぐらいです。

研修を通して、仕事をする上でメリハリをつけ、楽しむ気持ちを持つ事が大切だと思いました。これからの学生生活、就職活動、就職してからに活かしたいと思います。

#### 5 研修国での生活体験について

家は全体的に自由主義で、自分の行きたい所や予定を優先してくれ、英語の練習もしてくれました。自宅に天井に届くくらい大きなクリスマスツリー(2.5mくらい)があったり、お風呂の時間が短かったりと日本では経験した事のない事が沢山ありました。学校には様々な国の人がいて、その国の文化を教えてもらったり、先生が時間にとてもルーズで1時間以上待たされたりと日本とは違うと文化体験を沢山できました。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

私は英語があまり話せないままインターンに参加したので、本当に伝えたいことが伝わらず、みんなが楽しそうに話している中に入っていけず、悲しい気持ちになったこともありました。だからある程度の英語力は事前に身に着けることが必要だと思います。

またやる気と負けん気も大切です。私は仕事を言われた通りにやったつもりでも、ちゃんとできていなかったようで、すごく怒られ悔しくて泣きながら帰ったことがありました。でも、せっかく来たのにこのままで終わるのは嫌だと思い、次に同じ仕事を任された時は、「絶対に完璧にやる」と強い気持ちを持って取り組んだら、その時はうまくできました。とにかく気持ちの持ち方は大切だと思います。

あと海外は日本ではありません。日本の常識は通用しません。待ち合わせは当たり前に遅れてくるし、お店の人の態度が悪いなんてよくあります。でもここは日本ではないと割り切って、広い心を持って過ごした方がいいと思います。

ミシンや裁縫など、服飾学生ができる前提のスキルは身に付けて行った方が、任せてもらえる仕事が増えると思います。あとPhotoshop、Illustratorも使えた方がいいと思います。

最後に楽しむ気持ちを持ってください。海外で2ヶ月過ごすということは楽しい事ばかりではありません。何回も帰りたいと思いましが、楽しんだ方が良いと思い、休日は遊んで平日はメリハリをつけてちゃんと仕事をしました。そのお蔭で今は行ってよかったって本当に思います。

# 7 支出の内訳

• 笛字實用(字	質、ホーム	ステイ、	航空券、	追加旅行費)	 640,000円
• 現地で使っ	たお金	現	金	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	 93,668円

カード 47,430円

• 合計 **781,098円** 

# INTERNSHIP REPORT HONGKONG

インターンシップ報告書・香港

研修国・都市:香港

研修期間: 2015年10月19日~2015年12月11日

研修先企業名: Paragon Design Ltd. (WHOS THATshop)

#### ■ 研修先企業について

私の研修先企業であるParagon Design Limited.はDuOという主にバッグのブランドと、WHOSTHATというレデイースファッションブランドの2つを展開している。私のインターンシップ先はPMQという商業施設内にある、WHOSTHATshopという店舗である。WHOSTHATshopにはWHOSTHATの衣服だけではなく、DuOのアクセサリーやバッグも置かれている。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

主な業務は5つあり、1. 企業分析(WHOSTHATshopとPMQ内の似ているブランド、WHOSTHATshopとHarbour City 内の似ているブランドについて比較しレポートを作成、SNSの今後の活用方法やデイスプレイについて提案) 2. アパレル産業の構造(デザインをするところからお店に商品が届くところまでのプロセス)の理解 3. イベントのプロモーション企画(ハロウィーンとクリスマスに向けてのイベントを企画し、実際に自分でデイスプレイ等作成) 4. 店内レイアウト/ディスプレイ変更(毎週金曜日にマネキンの衣裳を変えたり、店内の家具を移動させたりした) 5. 店番(接客、フィッティングの補助、会計等)であった。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
フロアミーティング (クリスマス イベントについて)	イベント企画 (ディスプレイ、 くじ引きの計画)	サンプ <b>ル作成</b> (店内のディスプレイ用)	店番	店番・ディスプレイに 必要なものの発注等

#### 3 事前に設定した目標や課題

当初インターンシップ先はデザイン事務所と聞いていたのでデザインに携わりたいと考えており、商品企画をしたいと思っていた。目標は日本と香港のデザイナーズブランドの国内でのポジションの違いを見て学んでくること、海外の働き方を見てくること、香港はどういう国なのか肌で感じてくること。

# 4 インターンシップを通して学んだこと

学校生活や日本でのアルバイト経験では実際に自分が企画したものが実現されることはほぼなかった。それがインターンシップでは自分の思いをうまく伝えてデザイナーの支持を得られれば実現できるので、これまで苦手だったプレゼンの重要性を学んだ。語彙力は足りていなかったが、はじめてのことを行うときにはモデル案を提示したり、サンプルを作成したり、イラストを描くことで意思を伝達することができることがわかった。

また、クリスマスのイベントプランニングではPMQ初めてのフロア全体のキャンペーンを成功させることができた。 その時に学んだのは提案する相手をよく知ることと、提案者は先陣を切って物事を進めるべきだということである。 対象が多ければ多いほど賛同者も多くなるが、批判者もでてくるのでその時に味方が多ければ多いほど物事を実行しや すい。この経験を得て、自分の就職先の案に企画職はなかったが、何かを作り出し実現する楽しさを知って企画職も就 職先の案の一つになった。

#### 5 研修国での生活体験について

ローカルな食事処の店員、郊外のスーパーマーケットの店員やバス・タクシーの運転手、中年から高齢の特に男性はほとんど英語が話せない(聞く耳も持ってくれない)。ただ様々な国の人が生活しているので都会の方ではほとんど英語で会話できる。その際の英語はかなり乱雑でも通じる。

MTRは日本でいう山手線並みに頻繁にくるのでMTR沿線上の交通の便はとても良い。ただしMTR内では飲食は不可だが、通話は許可されているので車内はかなり騒がしい。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

スマートフォン向けアプリの「WhatsApp」を取っておくべき。香港では多くの人が利用しておりWHOSTHATshopのスタッフ用のグループやクリスマスイベント企画用のフロア全体グループもあった。私は海外でアプリをインストールできなかったために、1度予定を知らずにミーティングを欠席してしまった。ファッション産業の構造は完璧に理解しておくこと。私は学んだことをほとんど忘れてしまっていたので本格的なインターンシップを行う前にもう一度復習したため。

香港は中国人もたくさんいるが、そのほかの国の人々もたくさんいる。実際に私が働いていたPMQの同じフロアには日本人、オーストラリア人、カナダ人、中国人、台湾人が働いていた。とても忙しい国というのは間違いなく、いつでもせかされるような感覚がある。ゆっくりと仕事をしたいという人にはおすすめできないが、バリバリと働きたい、自分の発想力を試してみたいという人には最適な環境だと思う。

#### 7 支出の内訳 [生活費・お小遣なども含めて]

[生活費] ・ホテル代 (2ヵ月・食事なし) …… 約350,000円

その他 (洗濯代や衣服代、外食代等) …… 約10,000円

[小遣い] ・お土産代、お菓子代等 …… 約20,000円

# INTERNSHIP REPORT DOMESTIC

インターンシップ報告書・国内

研修国・都市:日本・東京

研修期間:2015年10月19日~2015年12月11日

研修先企業名:ブランドニュース株式会社

#### ■ 研修先企業について

ブランドニュースは、ニューヨークや日本のファッション及びコスメティックブランドのPRを中心とした企業です。 渋谷にオフィスがあり、プレス系の企業には珍しく、取り扱いブランドのサンプル品を多数抱えています。通常は各メ デイア媒体へのサンプル貸出しや取り扱いブランドの広告企画、イベント企画をしているが、1シーズンごとにサンプ ルセールや展示会、レセプションパーティーも行っています。

#### 2 インターシップ研修先での業務内容について

インターン開始直後にブランドニュースのサンプルセール、その後他の輸入代理企業やブランドとの合同のサンプルセールがあり、準備や販売、在庫管理業務を行いました。その後取り扱いブランドの次のシーズンの展示会が開催され、準備、案内、受付などを担当しました。

通常業務面では取り扱いブランドが他のブランドとコラボレーション企画をするにあたり、コラボレーション先へのプレゼンテーション資料の作成や、展示会、サンプルセールの各ブランドへの報告書を作成します。また、新たに取り扱うことになったブランドの日本企業へのデザイナーズプロフィールを作成。以上の書類作成は全て英語でおこないました。

#### [1週間のスケジュール例]

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
リース 作業手伝い	顧客管理	翻訳作業	コスメブランドの テスター作成	クリッピング

#### 3 事前に設定した目標や課題

自分のつきたい業界に関して、授業で学ぶことと肌で感じることは異なるので、プレス業界のノウハウや仕組みを 学習し、自分のこれからへ活かせるようなことはできるだけ学ぼうと考えました。

#### 4 インターンシップを通して学んだこと

まず感じたのは、広告業界は想像していたよりもはるかに地道な下積み作業の結果だということです。海外のブランドの場合、本国と日本のやり方のギャップをうまく埋めることが非常に困難で、デザイナーやデイレクターの無理を取り入れつつも、日本の広告業界に合わせていかなければならず、そのためには普段の地道なコネクション作りや展示会の下準備のクオリティーにかかっていると思いました。サンプルセール実施の際には、1200通を超えるDMを送付したり、地道なアプローチの繰り返しなどがみられ、大変勉強になりました。これらは大学のQプロジェクトのような販売イベントを開催するにあたっても参考になることが多かったです。

また、PRの業界にも細分類や悪種の企業があることを知り、自分の将来へのイメージづくりをよりしっかり行うことができました。

#### 5 研修国での生活体験について

日本での研修だったため文化的な差異は感じなかったものの、会社の代表が「少数精鋭で最大限の効率よい仕事をする」という、日本というよりアメリカの企業に近い考えをお持ちの方でした。そのため、残業等はほとんどなく服装等も自由だったため、日本の企業ではあまり感じたことのない自由な職場の雰囲気でした。また、仕事の場面によって雰囲気を変えるために多くの社員がオフィスに服のストックを置いている点も印象的でした。

#### ▲ 感想や、今後プログラムに参加を考えている後輩へのメッセージ・アドバイス

日本のプレス企業は前述のとおりイベントなど場面によって服装のTPOが大切なので、場面に応じた服装ができるよう服のレパートリーがあるといいと思います。

また、効率がとても求められる企業なので、仕事や課題に普段から計画性を持たせておくといいと思います。

#### **ブ 支出の内訳** [生活費・お小遣なども含めて]

- ・主に交通費と食事代
- サンプルセールで自身も購入できるため衣装代。
- ・勉強のために雑誌代。

